

都市再生整備計画事業 事後評価シート
(原案)
水俣中央地区

平成26年11月

熊本県水俣市

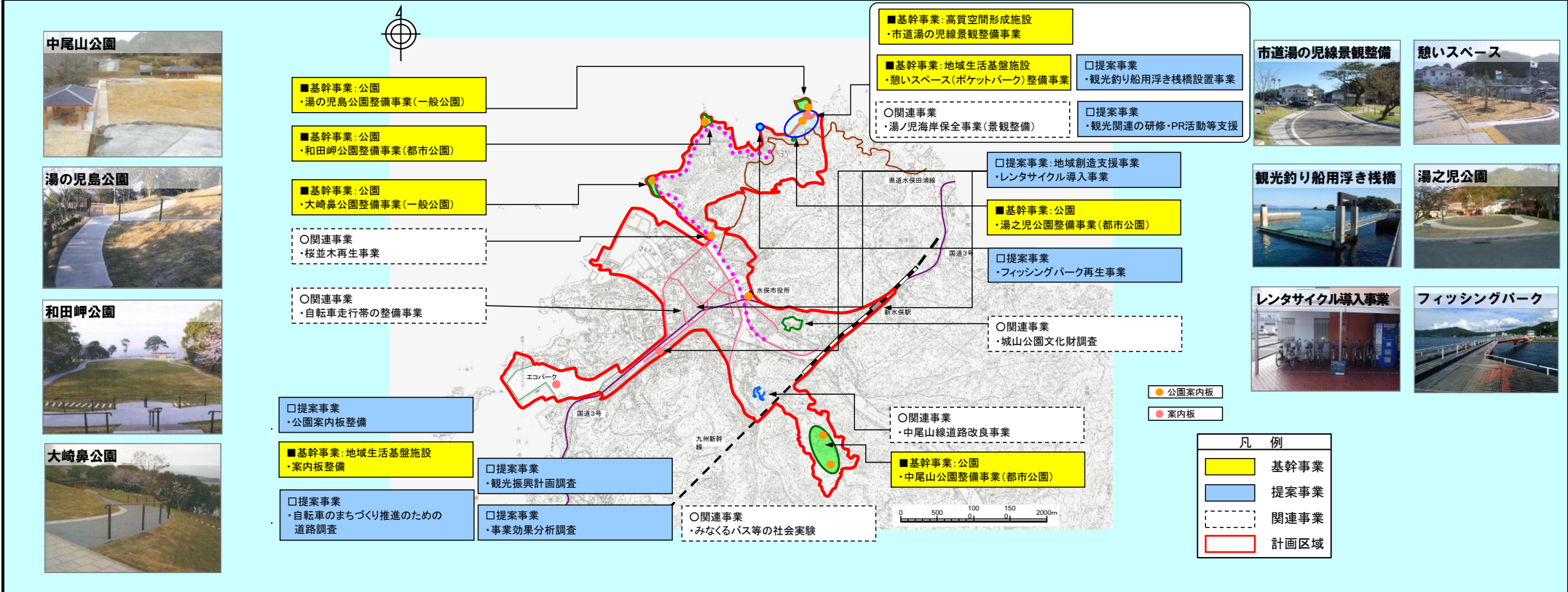
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名	水俣市		地区名	水俣中央地区			面積	800ha		
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	673.2	国費率	0.388				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 湯之児公園整備事業、和田岬公園整備事業、中尾山公園整備事業、大崎鼻公園整備事業、湯の児島公園整備事業、公園案内板整備(最終は提案事業として実施)、案内板整備、市道湯の児線景観整備事業										
		提案事業	観光釣り船用浮き棧橋設置事業、フィッシングパーク再生事業、レンタサイクル導入事業、自転車のまちづくり推進のための道路調査、観光振興計画調査、事業効果分析調査、観光関連の研修・PR活動等支援										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-		-		-			-			
		提案事業	足湯整備事業		-		温泉の供給元が倒産、その後新規参入先と協議したが、浴場拡大に伴い泉源確保が困難となり、事業中止とした。			指標2「観光客入込み数」に影響があるが数値目標は据え置く			
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(憩いスペース(ポケットパーク)整備事業)		-		湯の児温泉での交流促進を図るため、観光客が利用しやすい交流スペースを追加した。			指標2「観光客入込み数」に影響があるが数値目標は据え置く			
		提案事業	-		-		-			-			
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		-		-			-				
	変更	なし		-		-			-				
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度			モニタリング	評価値					
	指標1	公園の維持管理等への参加人数	人	231	H21	277	H26	197	280	○	あり なし	湯の児公園等5公園の再整備等により公園の維持管理等の参加人数が増加した。	-
	指標2	観光客入込み数	人/年	144,000	H20	144,000	H26	104,632	139,032	△	あり なし	湯の児温泉地域での道路の景観整備、フィッシングパークの再生、市内各地への観光案内版の設置等により観光客入込み数が増加した。	平成27年6月～平成28年3月
	指標3	温暖化対策の満足度	%	4.2	H21	15.0	H26	-	15.1	○	あり なし	自転車利用環境の充実等により温暖化対策の満足度が向上した、	-
指標4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	あり なし	-	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度			モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4) 定性的な効果発現状況	公園の整備には、LED照明や再生材、地域木材を取り入れた整備を行った。また、道路整備や公園整備により、自転車に乗りやすい空間整備や回避拠点の整備が進められ、レンタサイクルの利用促進が図られている。それらの事業効果を総合してみると、温室効果ガスの排出が抑えられることで、目標に掲げる「低炭素社会の形成」に寄与している。												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等								
	モニタリング	中間年度でのモニタリング調査(指標1、指標2)	都市再生整備計画に記載し、実施できた		●	事業の効果を定量的に確認できるため、事業後においても指標の状況を確認する。							
	住民参加プロセス	フィッシングパーク再生に伴うワークショップ開催	都市再生整備計画に記載し、実施できなかった		●	今後もコミュニティ施設の検討にあたっては住民ワークショップ等の実施を積極的に行う。							
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-	-							
持続的なまちづくり体制の構築	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-	-								
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-	-								

様式2-2 地区の概要

社会資本整備総合交付金(水俣中央地区)の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値		
大目標: 環境モデル都市づくりを基盤に豊かな自然と資源に包まれたためにもあるまちを目指す	公園の維持管理等への参加人数	231	H21	277	H26	H26
目標1: 市民の憩いの場等を充実させ、市民の交流促進や地域活動の形成・継続を図る	観光客入込み数	144,000	H20	144,000	H26	H26
目標2: 観光資源の再生を図り、観光の振興と交流人口の増加を創出する	温暖化対策の満足度	4.2	H21	15.0	H26	H26
目標3: 環境モデル都市にふさわしい低炭素社会の形成を推進する						



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 湯之児公園、和田岬公園、中尾山公園、大崎鼻公園、湯の児島公園の再整備により、市内公園の遊園可能な面積が拡大するとともに、老朽化施設の更新・長寿命化が図られ、市民や観光客の憩いの空間が形成された。 湯の児温泉地域におけるポケットパークや観光釣り船用浮き桟橋の設置、フィッシングパークの再生、発掘調査による公園の史跡的価値顕在化など、観光資源が整備されたことと、市内各地への観光案内板の設置、自転車利用環境の充実、道路の景観整備が実施されたことで、施設の利便性向上と観光資源の魅力向上につながり、交流人口の拡大が図られた。 燃料使用の交通機関に変わるレンタサイクルの整備を実施したことで、環境負荷の低減につながる自転車利用のネットワーク構築が進んだ。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 整備された公園施設の適正な維持管理を実施するとともに、地域に開かれた身近な憩いの施設としてのイメージを醸成し、アドプト等による行政と住民協働による維持管理を推進する。 整備の進んだ施設等を中心に地域資源を活用し集客拡大の施策を推進するとともに、テレビ、ラジオ、フリーペーパー等の広告媒体を活用し、水俣市の魅力発信の強化を図る。 環境首都としてふさわしい低炭素化社会の体制の強化の一つとして、レンタサイクルや自転車利用の拡大を推進する。